

平成27年度岡山県がん対策推進協議会 議事録概要

日時：平成28年1月27日（水） 15:00～17:00

場所：サンピーチOKAYAMA 3階「ピーチホール」

【協議】

- (1) 第2次岡山県がん対策推進計画の進捗状況等について

【報告】

- (1) 全国がん登録について

<発言要旨>

【協議】

- (1) 第2次岡山県がん対策推進計画の進捗状況等について

○会長 第2次岡山県がん対策推進計画の進捗状況等についての協議に入る。事務局から説明願います。

(資料1、資料2、資料3について事務局から説明)

○会長 ただいまの説明に対して、意見、質問がございますか。

岡山県は、肝臓がんについて、年齢調整死亡率の成績が少し悪いということだが、それについて何か意見等ございますか。

県としては、早期発見に向けた対策をされているということだし、医療機関は、治療が可能であれば、それを治療する。東日本と西日本では多少発生状況などが違うと認識しているが、何か意見等ございませんか。

○事務局 県としては、肝炎対策を実施している。結局、肝炎から肝硬変、肝臓がんといった重篤なものに移行するということがある。まず、ウイルス性肝炎が非常に大きい割合を占めており、それを知らずに過ごしておられる方が非常に多いということがある。それで、少しでもそういう方を少なくするために、岡山大学病院と連携して、「肝炎ウイルスの検査を受けましょう。」といったキャンペーンやいろんな啓発事業を行っている。

また、保健所や肝疾患診療連携拠点病院においては、無料で検査を受けられるような体制を組んでおり、そういったことをいろんな機会を捉えて、例えば、県内であるいろんなイベントを利用してPRしている。

こういった活動を地道に続けていくことが、少しでも、肝臓がんを減らせる可能性を増やしていくものとする。

また、最近では、ウイルス性肝炎以外の肝炎の発生もいろいろ増えているということがある。これについては、生活習慣病や飲酒についての正しい知識を普及啓発するなどにより、地道に重点的に取り組んでいく必要があると考えている。

○会長 では、肝臓がんについては、結果がちょっと先になるかもしれないが、もう少し検査とかをやっていくということで。それから、乳がんについてだが、去年は特に40歳代のところはかなり大きいピークがあった。今年は、そこは少しなだらかになっている。

それは、統計のとり方か、乳がん検診について、40代にかなり啓蒙したので、そういうマスコミの影響もあって、その年代の受診が増えたかだと思ふ。若年者の乳がんもあると思うが、乳がんの対策について何かご意見ございませんか。

○事務局 乳がんについては、やはり検診を受けていただくことが重要だと思う。岡山県は非常に手厚く、岡山県方式ということで、年齢対象も広げ、マンモグラフィーなんかを組み合わせさせてやっているが、受けていただきたい方、特に40代の女性について、今日も会場にお見えになっているが、地域に根差した検診の受診勧奨なんかを行ってくださっている愛育委員の皆さん方と手を携えて少しでも多くの方が受診してくださるように投げかけを行っていきたいと思う。

また、もう一つの切り口として、地域と職域との連携というのが非常に重要であり、県として重点的に行っており、協会けんぽと連携協定を結んだところである。

例えば、地域だけでなく、職域のほうからも働いている方の配偶者に受診促進を図るような取組を、地域に根差した愛育委員の活動とあわせてやっていきたいと思うので、ご協力、ご支援をお願いします。

○会長 来年度の乳がん検診のやり方については大きな問題になっているが、医師会としても触診をどうするかということがまだ決まっていない。しばらくは継続になると思うが、マンモグラフィーと超音波をどうするかという問題も出ており、なかなか早急にはいかなないと思うが、そういう点も少し啓蒙してもらって、両方向でやっていくようにしたらどうかと思うが、いかがか。

○事務局 関係者の皆さんに入っていて、検診項目の検討作業を行っている最中である。

国からの答申が出ているので、そういったものを踏まえた形での方向について、検討を進めているところである。特に、40代の方については、是非とも受けていただきたい。

- 会 長 国の指針は、2年に1回となっているのか。そのように書いてあるが。
- 事務局 そうである。
- 会 長 それを、岡山県は1年に1回でやっている。
- 事務局 厚労省の中間取りまとめが出ているが、もう間もなく、県でもその部会での結論が出ると思う。もうちょっとお時間をいただきたい。国の指針が今月末に出る予定であり、それも踏まえて検討した部会の最終的な答申を待ちたいと思う。
- 委 員 さわってみて、がんがどんなものかわかるような、そんなものはあるのか、ないのか。
- 委 員 乳がんモデルですね。
- 委 員 検診のときに来てもらった方にさわってもらってというのは、地域ですずっとやっていた。
- 会 長 集団検診に行かせてもらっているが、その際、来られた方に自己検診の相談を受けることがある。触診で実際に見つかるかどうかという、かなり率は悪いと思うが、そういうことで関心を持ってもらうというのも必要ではないか。愛育委員さんにもかなり応援してもらっている。
- 委 員 一遍、岡山でやったことがあるが、学生さんなんかは興味があった。さわってみてと言ったらさわって、あっ、これですか、これですかと言っていた。
- 事務局 そのことについては、乳がん検診を受けられる会場で、各市町村の保健師を中心に、どうやって自己検診をしたらいいかというのを、実は、昭和62年からずっと愛育委員連合会とともに実施勧奨してきた。そのときには、月に1回、男性も乳がんになりますから、みんな自分で乳がんを予防しようということで、鏡に向かって月1回自分のおっぱいをさわってみるという勧奨をしてきた。
- 乳がん検診の指針が夏に出されて、部会の方で、県の医師会やいろんな先生方にお集まりいただいて、毎年、検診を受けた人と受けなかった人の病態もきちんと出していただいて、やっぱり、毎年、検診を受けていただいた方が早く軽い状態で見つかっているということも明らかになった。こんな結果を受けて、国の状況も鑑みながら、指針も、30代で視触診だけで検診をしていたものを、視触診だけではやっぱりわかりにくい。40歳以上で必ず視触診にマンモを入れていこうという方向で、もう間もなく、制度改正の予定である。
- 委 員 申し訳ないが、マンモというたら何。
- 事務局 マンモというのは、乳房専用のレントゲン検査のことで、乳房を挟んでレントゲンを

撮る。そういう検査を今、皆さんにさせていただいている。

○委員 乳がんモデルも、いろんな所でやってみたらいいと思う。

○委員 また、やってみましょう。もう一回働きかけてみましょう。

○事務局 もっといろんな場所でPRをすれば、もっとみんなに広がるよというご提案をいただいたのだと思う。そのあたりは、また、3月に市町村の担当者を中心に集めた会議もございまして、そこでご意見を伝えさせていただければと思う。

○委員 もう一つ、資料2の4ページの禁煙推進事業で、27年度の治療費の助成は、40歳未満に対する治療費のどのぐらいの割合を払うのか、治療費はどれぐらいするのか。

○事務局 普通、禁煙外来に行って禁煙しようとする、大体5万円ぐらいなのだが、それは基本的には保険が利く。ただし、ブリンクマン指数が、1日に1箱20本を10年以上吸っている方より上じゃないと保険対象にならない。35歳とか30歳で毎日1箱の方は、その指数が低いので保険の対象にはならず、5万円丸々自己負担になる。若いときから吸えば吸うほどがんになりやすい率がぐんと上がるので、若い人がもう止めようと思っているときに一押しするという格好で、保険が利かない方も県のほうで助成しようということ、保険並みに7割を県費で助成する制度である。大体、自己負担額が15,000円ぐらいなるということ、保険を使った方と一緒に相場になる。

特に未成年者、これはもう直ちに止めて欲しいというものもあるので。

○委員 ということで、大体どのぐらいが相場かな。

○事務局 大体5万円、自己負担100%でいくと5万円ぐらいである。

○委員 パッチみたいなのをやるだけで、結構かかる。ところで、28年度の予算要求額に記載がないが、この事業は続くの。

○事務局 予算額は記載していないが、事業は継続する。

○委員 さっき肝がんの話があったが、岡山県は肝臓の患者さんが集積しているので、それで多分、死亡率が高い。ちゃんとした医療機関がないと、肝がんの患者さんがみんな県外へ出てしまうので。例えば、死亡率がすごく低い。そういう統計って、やっぱりすごく大事かなと思う。

○会長 昔、しばらくの間、肝臓疾患の治療に携わっていたが、広島から多くの方が岡山に来られた。特に備後地区が多かった。そういうのもあって、それが今、肝がんになっている可能性はあると思う。

それから、禁煙について、この前、新聞で、分煙とか飲食店での喫煙を防止するというのは、店の死活問題だという話があった。死活問題というのは、死ぬという話で、商

売ができなくなるかもしれないが、実際、たばこを吸って、よその人が死ぬのは構わんという話になる。最近、店で聞かれることが多くなって来たとは思いますが、県として、今後の対策はどうか。

○事務局 この前、罰則規定を設けるか否かということで、マスコミが取り上げていたが、議員さんが連携して分煙を徹底しようというふうなのが出ていた。恐らく、東京オリンピックが2020年にあるので、それを目掛けて、いろんな国際基準に合わせていこうとなる。完全分煙とかの推進についても、その辺をにらんで、いろんなことが打ち出されていくと思う。その機会を逃さないように、私どもも注視しながらやっていきたいと思っている。

○会長 オリンピック開催国で、受動喫煙防止法のない国は、どうも日本だけみたいである。

○委員 資料2の11ページのところの栄養成分表示の店の登録事業だが、県民の一人としても大変ありがたい事業である。これがどんどん進んでいくと、自分が食べ過ぎたか確認したり、セーブしたりできるので。ほかの市販の食品にも、今、栄養成分が表示されるようになったので。これがもっと進めばいいなと思うが、ちょっと伸び悩んでいるのかなという印象で、これからどんどん進めていただきたいと思う。

○事務局 当初、いい状態で伸びていたのだが、ちょっと頭打ちかなという感じである。実際、携わっている方々にもお集まりいただいて、いろんな話を聞きながら、どうやったら増やせるか、また考えていきたいと思う。

○委員 よくわからないので、ご存知の方がおられたら教えていただきたいと思うが、私どもの保健所に、このたび、クリーンベンチを備えた無菌調剤のできる薬局の開設許可申請というのがあった。このクリーンベンチを備えた無菌調剤のできる薬局というのが、話を聞くと、岡山市内の病院とも連携して、地域の方に薬を提供するというようなことも求められているというようなことを言われ、こういう無菌調剤のできる薬局というものの役割とか、あまり数はないと思うが、クリーンベンチを設置している薬局の数とか、その辺のことをご存知の方がおられたら教えていただけるとありがたいのだが。

○委員 確かに、クリーンベンチを設置した薬局が、今、実際問題、医療機関から求められている。求められても、実際にクリーンベンチを作れていないところなんかもある。

まだ、保健所への申請も少ないと思うが。岡山県薬剤師会の会営薬局がクリーンベンチを設置している。これも県の助成金で作らせていただいたが、そちらを活用してもらえば、医療機関から求められても、実際に会営薬局との契約によって、そこで薬を作って患者様に持って行けるというような仕組みができています。まだ、これに関しては、医

療機関にもあまり広報ができていない。だから、何処の薬局でできるのか、どういうふうなやり方ができるのかというようなことも、実際、ご存じない医療機関もあるのかなと思う。また、薬局サイドには、県北の方とかの薬局にあまり広報活動ができていない。

なお、会営薬局は岡山医療センターのそばなので、実際、ちょっと遠くなる。

今、簡易型のクリーンベンチを設置できるような許可がおりるようになっているので、実際に県北のほうでも、クリーンベンチを設置できる薬局が何カ所か増えてきているが、全800薬局のうち、本当にまだ、わずかである。

こんなところでよいか。

- 委員 そうすると、病院や診療所に情報提供の必要があるというふうに解釈したらよいか。
- 委員 そのとおりだ。病院や診療所にはこちらから広報する。薬局に問い合わせただければ対応できるようにと思っている。医療機関の方でもよろしくをお願いします
- 会長 大病院では、安全キャビネットで抗がん剤をまぜたりするわけで、製剤をやっている薬局とはちょっとニュアンスが違うように思うが、その辺ちょっとまた整理して解説してもらえたらと思う。
- 委員 女性のがん、乳がんとか子宮頸がんの部分だが、私たちもそうだし、薬局もそうだし、看護協会もほとんど、医療機関にも働いている女性の方が多いと思う。実際、私たち自身もそうなのだが、医療機関で働いている女性の方が、本当は検診をどの程度受診されているのかということも私たち自身わからない。
実際、医療従事者がそういう検診をしっかりと受診していけば、また、そこから啓発活動っていうのはどんどん広まっていく。また、家に帰っても近所の人とかに働きかけができるのではないかなとは思っている。その医療従事者の検診だが、男性には男性の検診もあるが、そのあたりは、県として把握されているのか。
- 事務局 そういったデータは持ち合わせていない。でも、協会けんぽさんといろんな連携をして、特定健診とか健康診査には限らないが、職場ごとの疾病の累計などのデータをもらって、例えば、運送業の方にどういう特性があるとか、検診の実施にはどういう選択肢があるのかというようなことを、だんだんと今、勉強している。また、どういったかたちでデータを公開するか話を進めている。そういったことについても、また、考えていきたいと思う。

それから、やっぱり検診に従事される方が検診についての知識とかやり方について、もっともっとレベルアップしないといけない。検診に行ったら何か嫌な思いをすると、や

っぱり足が遠のくので。検診のレベルアップについて、保健師さんとか医療機関にお願いして、人材の育成に来年度あたりから取り組みたいと思っているので、また、よろしくお願いしたい。

○事務局 今の補足だが、まさに医者の不養生じゃないが、医療機関とか医療関連職種の中で、がん検診に行かない理由として、忙しいとか時間がないとかいつでも医療機関にかかれるとかというようなデータがあって、いつも医療機関とか薬局とかの医療に従事されている方というのは、多分、いつでもかかれると思っている。今、まさに逆転の発想じゃないが、各医療機関ごとに、自らが、まず、その従業員に対してどういうふうに関診を進めるかというのは、確かに興味深い関心事項にもなるかなと思う。

まず、県庁職員はちゃんとみんな受けるようにするが、各医療機関もお願いしますということを、いろんな場面で言っていくというのは一つの手かなと思った。

○会長 各施設のアピールといたら、インフルエンザの接種率が100%とかがあるが、がん検診の受診率とかは余りありませんので、特別率が高いとかというのは自慢できると思うので、アピールして欲しい。

それから、胃がんの検診で、岡山県は、成績は悪くはないが、来年からレントゲン検査と内視鏡と併用になると思うのだが、どちらでもいいというような話にはなったが、県としては、第1次はレントゲン検査をするのか。いろいろキャパの問題もあるが。

○事務局 これもまた、今、まさに部会でご検討いただいているところ。いずれにしても間もなく国の最終方針が出るので、それを見て検討ということになると思うが、内視鏡については、多分そういった方向になるんじゃないかなとは思っているのだが、しばらくお時間をいただきたい。

○会長 ヘリコバクターピロリの除菌については、現在かなり進んでいるような感じを受けている。実際、統計を見ても、5年ごとに高齢者の胃がんは減っている。多分、それは除菌の効果が出ているのではないかと思うが、できれば早い時期に除菌してもらったほうが効果があるので、啓蒙についてよろしく願います。

そのほか、小児がんについて、去年はデータを出してもらっているが、何かありますか。

○委員 アンケートの結果に、遠方から治療に来られた方のご家族が泊まれるような施設があったらいいなというふうなことが上がっているが、岡大病院の中にできると言われていた。小児がんのご家族もちろん利用できますよね。

○委員 病気を抱える子どものご家族が対象である。現在、事業計画を作っており、多分、今

年の秋くらいに着工の予定である。

○委員 ありがとうございます。

○会長 何かございますか。

○委員 先ほどの検診の問題だが、がん教育に関わらせていただいております、外部講師として、2年間、講演に行かせてもらった。また、岡山市のほうにも行かせてもらっているが、つい今月の頭に中学校の1年生にがん教育で講師をさせてもらったが、後でアンケートをとったら、中学校の1年生は非常によく理解している。

それと、おうちに持ち帰って、お父さん、お母さんに話しますというようなことを言ってくれる子がいる。がん教育は小学校から始まるように聞いているが、パンフレットを子供たちに持たせるという方法もあるかと思う。いろんな講演会とか、そういうことに参加するというのも必要なことだが、乳がん検診、胃がん検診、お父さん、お母さん受診してくださいよっていう意味でわかりやすく書いたものを渡し、子供と一緒に考えてがんを考えるというような形で取り組んでいけたら、若年者からのがん対策になっていくのではないかと思う。

それともう一件は、ちょっと話がかわって、地域医療についてだが、県北の患者さんたちが非常に苦しい思いをされている。また、病院で治療を受けてもすぐに退院しないといけない。がんサロンとか支援センターに足を運んだり声を上げていける患者さんは良いのだが、声も出せないというか、何が何だかわからないままにがんという病気を背負ってしまって、そのまま置き去りにされている方がいる。それで、患者さんも患者さんの家族もとてもつらい思いをしている方が多いと思う。

私が望んでいるのは、がん診療をされる病院にがんサロンとまではいかななくていいと思うのだが、その場所を提供して、それから病院の方に1人そこに入ってもらって、何も相談じゃなくて、みんなで話し合えるような、そんな場所をつくってもらえたらありがたいなと思っている。

以上。

○会長 どうぞ。

○事務局 医療推進課です。ありがとうございます。

まず、後のほうの患者さんで患者会やサロンに参加できないような方々、あるいは病院で退院時までには十分な指導とかそういったサポートが得られていないような方がいるというようなお話、また別の機会にも同じようなお話を伺うことがあった。

岡山大学病院が県のがん診療連携拠点病院として会議を主催し、他の拠点病院、地域

がん診療病院、推進病院の方とともに、非常に熱心に連絡会議等を開催してくださっている。そこで、非常に多岐にわたって、内容の濃いディスカッションをしてくださっている。そうした中に我々の方からもそうした実態をお伝えし、拠点となる医療機関でそういったことへの配慮、サポートなどをお願いしていきたいと思っている。

恐らく、一朝一夕に行く話ではないと思うが、そうは言いながら患者さんの苦痛を取るとか、あるいは、その後の生活も含めた診療というのは、医療従事者の方々も恐らく願っているところは同じなので、我々もきちんとそういうことをお伝えして、御提案が有意義なものになるように努力したいと思っている。

それから、がんの教育のことだが、これは健康推進課にも関係するのだが、その教育庁のほうで取り組んでくださっている会議には保健福祉部からは私が委員として出席させていただいているので、今いただいたようなご意見も踏まえて、そこの中でのいわゆるがんの予防とか検診とか、そうしたことへの子供さんを通しての普及啓発、これも健康推進課さんのほうにも協力をいただきながら、保健福祉部と教育庁との間の円滑な連携、効果的な事業の推進ということで努力したいと思っている。

ありがとうございます。

○会 長 提案があったので、教育庁の方から。

○事務局 教育委員会です。私どもも山邊さんにすごくいろいろ助けていただいて、子供たちの心に響く本当にいい話をいただいて、子供たちも真剣に生きるということを考えていくという本当にいい事業が今、展開されている。先ほどのお話のように子供に資料を渡すというのは、薬物の関係等でもやっているのです、是非、協力できるところはしていきたいと思う。

以上。

○事務局 文科省に医系技官が出向し、今、頑張って「がん教育」の在り方に関する検討会を立ち上げて、学習指導要領の中でどういうふうに取り扱うかも含めて検討会をやっているので、そういうことができれば、リーフレット等も共有できるかなというように思っている。

以上。

○委 員 ちょっと前の話題で、肝炎、肝がんの話なのだが、院内でちょっと問題があった。

存外、肝炎とか肝臓がんに関わりのない診療科、整形外科とか耳鼻科とかのところ、そういう科は、手術の場合にルーチンで検査をしていることが多い。それで、例えば、C型プラスとなっているにもかかわらず、全然無視して、そのルーチンの検査というこ

とだけで逃されている場合が多いということに気がつき、一応、そういう検査をしたときに治療歴とかがなければ、必ず内科に回すとか、肝臓の専門家に回すとか、そういうふうなことをしっかりしようという取り決めをして、落ちこぼれを防ぐというような試みは始めた。それが1つ肝がんの話である。

もう一つは、昨年秋ぐらいから、ちょっと年が明けてからはどうかかわからないのだが、乳がん絡みの検診がめっちゃくちゃ増えている。北斗晶効果というのか。恐らく乳がん系のうちの医者も9時ぐらいまで外来しとったりして、もう圧倒的に増えてるいるのだが、本当に一時的な効果みたいである。恐らく年を明けてしばらくしたらしゅんと、またもと通りになるのじゃないか。地道な努力で増やすのよりも、ああいうテレビの影響のほうがよっぽどすごいと感じているところである。

○委員 先ほどの話にもあったが、一般の方にがんの理解をどう進めていくかというのは非常に大きな課題のように思う。先程、テレビの影響という話もあったが、私自身は資料1の2ページに死亡のデータがあって、資料の10ページには罹患のデータがあるが、がんというのは罹患と死亡で随分状況が違うし、例えば、罹患で見ると乳がんでは500人に1人ぐらいである。岡山県の女性の500人に1人ぐらいは年齢にもよるが、乳がんにかかるというような状況もあるので、例えば、がん登録も法的にもスタートするし、若干、いろんなマスコミも巻き込んでいろんなPR戦略も組み立てていただいて、マスコミもネタがないときもあると思うし、あるいは企業の広報紙なんかもネタがなくて困っているところもあるので、そういうところへ積極的にどんどん提供していく。

なかなか県庁の皆さんもお忙しいので、余り言わんほうが良いのかもしれませんが、そういうところにどんどん情報を提供していったり、マスコミの方を積極的に巻き込んでいくような戦略も必要かなと思っている。以前、健康推進課のほうでもYouTubeで禁煙のビデオをつくられたりして、閲覧回数も多かったということもお聞きしております。アニメーションなども取り入れたりして、そういうPR戦略も少し検討していく価値はあるのかなと思う。

あと、働き盛りの方の健康づくりという面で、ある意味、病気は、生活習慣の問題の結果として何年後かにあらわれてくるので、働き盛りの皆さんの健康づくりをどう進めていくかというのが今、非常に大きな課題のように思う。そういう面で、私は3カ所の企業の産業医もしているが、企業の方にとって、検診などは経費であり、出費である。単なる出費。ところが、ある意味で職員が健康になるための投資であるという、そういう健康経営の概念をこれからどんどん普及していかないといけない。なかなかやむなく

するしょうがない出費ではなくて、職員を健康にすることによって生産性も上がるし、非常にモチベーションの向上にもつながるといふ、そういった投資という概念を広めていくのもこれからの課題のように思う。そういう面で、産業分野を巻き込んだ幅広い取り組みもPR戦略で要るのかなと思いつながら聞かせていただいた。余りまとまりのない話になったが、そういう面で、マスコミ戦略あるいは労働分野で保険者を巻き込んだ形の何らかのPRも、なかなか大変だが、検討いただければありがたいかなと思う。

あと、がんについては、介護保険も申請可能だが、これから在宅医療を進めるという面では市町村、特に包括支援センターへのいろんな事業もあったが、これから市町村や地区医師会で在宅医療の受け皿の機能強化をどう図っていくかというのが課題のように思う。そういう面で、これから保険者の皆さんにも地域でのネットワークづくりのほうをいろいろと工夫を凝らしてやっていただければなと思う。

以上。

○会 長 全体を網羅していろいろお話をいただきました。各がんのことについての検討とそれから今後の方針ということでいろいろご意見いただきました。これからは全体的に包括ケアになっていく。

そういうこともこれからまた検討していけるのではないかなと思うが、大分時間も来ましたが、何かご意見ほかにございませつか。

○会 長 それでは、これで第2次岡山県がん対策推進計画の進捗状況についての協議は終了とさせていただきます。

【報告】

(1) 全国がん登録について

○会 長 次に、事務局から全国がん登録についての報告があります。よろしくお願ひします。

(資料4について事務局から説明)

○会 長 ただいまの説明に対して、意見、質問がございませつか。

○委 員 以前、国立がん研究センターが協力してやったがんの5年生存率とかの調査があったときに、戸籍法が問題だとかということになって、その予後がわからない、あちこちに問い合わせ最終的に予後を教えてくれないというような市町村も結構あったようなのだが、ここにはそのがん登録って括弧して、診療転帰等に関する詳細な情報云々と書い

てある。これは、要するに予後のことまで含めての情報っていう意味なのか。

がん登録にそういうところまで含まれているということなのか。

○事務局 これまで市町村に情報提供を求めていたのは、地域がん登録に関してのものである。

今度、全国がん登録になると、もう法定の事務ということで、死亡情報についても、全数、全国で情報を集約することができる。これは、国において行うことになるが、そうしたことで、これまでのように市町村の任意で情報提供いただくというようなことではなく、この全国がん登録の事務の中で、死亡情報についても集約されるということになるので、精度は上がってくると考えている。

ただ、平成27年12月31日までの罹患については、地域がん登録で実施することになり、そこについては、従前のスキームで、今後、また、予後調査等についても必要になってくるため、そこは、なかなかこれをもって改善というのは難しいのかなと考えている。

○委員 どうもありがとうございました。

○会長 我々も期待しているので、よろしく願います。

ほかに何かご質問は。

では、これ以上の発言はないようなので、そろそろ。

○委員 1つだけ情報提供をさせていただく。

来年7月に、第15回日本臨床腫瘍学会を開催させていただく。

日本臨床腫瘍学会というのは、国立がん研究センターも加わって、今後、がん対策基本法に沿って、いろんなことを全国的に進めていこうということで、協力をしてやっている学術団体である。私自身、このがん対策に関して非常にお世話になったので、今回の学会のテーマを「最適ながん医療 いつでもどこでも誰にでも」ということで、昨日、企画委員会に出させていただいた。今後、全国の企画委員の先生に入っていて、その学会を行おうということで計画している。会員が5,000人を超える学会なので、残念ながら岡山市内では開催できない可能性が高いため、神戸の国際会議場を使わせていただく。

ただし、市民、それから患者様向けの企画に関しては、岡山大学鹿田キャンパス内にある、Junko Fukutake Hallを会場に企画をさせていただこうと考えている。患者様に関しては、岡山に会場を置くという視点、立ち位置で学会を計画しようということで、スタートさせていただいた。いろんな企画をこれから考えるが、基本は、市民の方目線でいろんな企画を考えていこうというふうに思っているので、また

いろんなことを今日ご出席の皆様にご協力いただくかと思うが、よろしく願います。

○会 長 それでは、これで本日の予定を終了する。